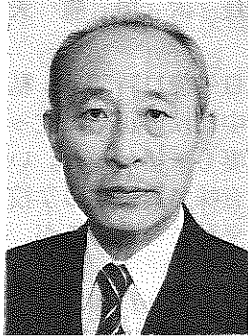


栃木県中学校長会報

〔役員所感〕

平成13年9月7日 発行 第95号
栃木県中学校長会広報部

会長あいさつ



栃木県中学校長会長
宇都宮市立星が丘中学校
校長 須藤 光 弘

21世紀を迎え、我が国の学校教育は社会の変化に適切に対応できる国民の育成を目指し、完全学校週休五日制のもと、「ゆとり」の中で特色ある教育を展開し、「生きる力」を育成することを柱にした、新教育課程の完全実施が目前に迫りました。

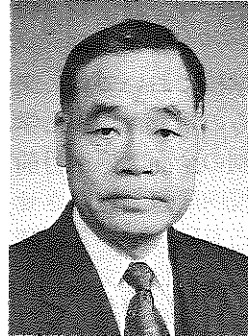
文部科学省は、教育改革国民会議の提案を受け、本年1月25日、正に今までの教育の潮流を変える、21世紀教育新生プランを発表し、一方では教育関係法が複数同時改正を目指し国会に上程されるといった前例のない動きは、皆様周知のところ です。

この新生プランの中で、私達中学校で直接生徒の教育にかかわるものとして、奉仕活動・出席停止制度・少人数教育の実施、習熟度別学習・わかる授業の実現等が示され、一方、教えるプロとしての教師の育成として、指導力不足、不適格教員への対応等が挙げられております。また、地域の信頼に応える学校作りとして、学校の評価制度の導入・学校評議員制度と開かれた学校作り・校長の裁量権の拡大等が提言されております。

私達校長は、教育改革の渦中であって、新しい学校教育を目指し、教育の基調が変換されようとしていることへの主旨の理解と施策への充分なる認識を持ち、栃木教育振興ビジョンに基づいた県の教育目標を基底に、学校経営を行なわなければならないとともに、一方では、学校の自主性・自立性が求められていることを受け、4管理2監督の学校経営基本理念や教育目標の管理に伴う自己評価システム、地域に根差した開かれた学校経営等、校長としてのリーダーシップと創意工夫が不可欠であります。

今後とも、本校長会の8専門部会の活性化や情報交換をますます密にし、各学校の実態に即して、精選と効率化を図る必要があるとともに、各教育委員会をはじめ関係教育機関との連携のもとに努力を傾注することが必要であろうと考えております。

大会を振り返って



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立陽東中学校
校長 永野 勝 巳

去る6月に開催されました第53回関東甲信越中学校長会研究協議会栃木大会は、各校長先生方のお骨折りによりまして、無事終了することができました。

平成10年度に準備会が設けられ、全体会、分科会の研究協議会を検討し、平成11年度には、準備会が発展的に準備委員会となり、大会の運営組織の検討を進めるとともに、各地区では、研究協議会に迫るための研究が進められました。平成12年度には、いよいよ大会運営組織が作られ、運営のための内容の検討も進められました。

本年度になり、最終的な運営組織も決まり、具体的な準備活動が進められました。実行委員会、企画委員会、さらには6つの各部の部長さんを中心とした活動により、2か月という短い期間にもかかわらず、準備万端整えて大会を迎えました。

大会運営に当たられた各先生方の当日の活動ぶりは、誠に見事なものであります。また、全体協議会、各分科会での本県の提案内容も参会者から高く評価されております。

参会者のアンケートの結果も、いずれの項目も高い評価をいただき、改善を要するという意見は、多くて数パーセントに過ぎません。

7月の関東地区の理事会での各都県の会長さんからも、会場、運営、内容いずれもがすばらしかったとお誉めのことばをいただきました。すばらしい大会であったと思います。

1000人規模、経費節約型で、内容の濃い研究協議会をこの栃木大会から発信することができました。有難うございました。心から感謝申し上げます。

〔役員所感〕

今、求められている体験活動とは！



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立一条中学校
校長 谷島利康

今、各学校においては、来年4月からの新教育課程と学校週5日制の全面実施を目前に控え、校内研修を充実させてその対応を図っている段階

かと思う。また、平成13年6月29日には、文部科学省が提出した教育改革6法案が可決され、近く施行通達される見込みのようである。

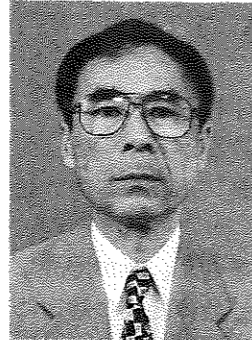
この法案の中には「体験活動の充実」が努力義務として、学校教育法・社会教育法に盛り込まれる予定だということである。内容的には、学校や地域社会を通して、子どもたちの社会奉仕体験、自然体験などの体験活動を促進することになるが、方法的にこの体験をどう取り入れるかによって、教育課程が大きく変わってくる。今までも、体験活動は重視されており、どこの学校でも何らかの体験活動を入れてきている。しかし、今回法律まで改正して体験活動を求めているというのはどういうことなのか。

今求められている体験は、単なる体験ではなく、人間としてのかかわりを通して、生徒の人間形成上の変容が見られる内容の広がりや深まりが必要であると言われている。

私の学校では、職場体験ということで、地域の職場に協力を求め、中学2年生を班別で1日職場に出掛けさせている。これだけでも生徒の意欲を盛り上げ、素晴らしいと感じていたが、兵庫県で実施している「トライやるウィーク」をテレビで見て、1日実習では生徒の表情は固く、職場での指導のみで、生徒が自分のかかわりを通して変容していくには十分とは言えず、5日は必要であると思った。今まで体験と思って広く浅くいろいろな内容を活動させてきたが、それは単なる経験であり、今求められている体験ではないと考えた。しかし、5日間位の体験を教育課程に入れていくには、これまでの行事を精選したり、工夫しなければならない。例えば、文化祭や体育祭などの伝統ある行事も、地域社会と協力して一本化し、学社連携するとか、総合的な学習の時間に体験学習を入れて、十分に時間を確保していく工夫が必要である。

新教育課程に向けての課題は多い。

〔退任に当たって〕



栃木県中学校長会副会長
前宇都宮市立宮の原中学校
校長 大垣龍夫

3月31日午後11時55分、私は宮の原中学校の正門に立っていた。妻も一緒だった。いろいろな意味で真夜中の学校に何回か来たことはあるが、

今夜は特別な意味があった。

午前12時になった。この瞬間、私の37年間の教員生活にピリオドが打たれました。私は校舎に向かって「ありがとうございました。」と言いながら深く頭を下げた。妻が「終わったね。長い間御苦労様でした。」と言った。妻の目には涙がにじんでいた。私は車で外回りをゆっくりと一周して学校を後にした。平成13年4月1日になっていた。

私は担任時代から終始一貫こだわってきたことがある。①「朝の会」の時間を大切に。②道徳の授業をしっかりとやる。③テストの答案にコメントを書いて返す。④生活記録ノートには生徒より多く書いて返す。どれも特別なことではないが、遊びに来た教え子が「先生の毎朝の話を聞くのが楽しみだった。」と言うのを聞くのがうれしくなる。これらのことは校長になってからも努めて実践した。朝礼の話は時間をかけて準備した。週案には先生方より多く書いた。道徳の研究会も計画的に行った。学校経営の基盤は学級経営に在ると今でも確信している。

県中学校長会では多くの立派な校長先生方と一緒に研修会や大会に参加させて頂き、充実した4年間であった。また、研修部長、中教研会長、副会長をやらせていただいた。しかし、副会長として会長を補佐したり会員の皆様のお役に立つ等、何も校長会に貢献することができなかった。多くの課題を残したまま退職してしまったこと、残念であり誠に申し訳なく思っている。

いよいよあと半年で学校完全週5日制のもと、新学習指導要領による教育活動が展開される。それぞれの学校では準備も完了しつつあると思うが、学校や教師に対して風当たりの強い今、教師（特に校長）は自らの信ずるところに従って行動したいものである。県中学校長会のますますの発展と会員の皆様のご活躍、ご多幸を祈りつつ、退任とお礼のことばといたします。お世話になりました。ありがとうございました。

平成13年度 各専門部活動計画

◆ 総務部

部長 柿崎龍夫(宇・陽北中)

平成13年4月24日、県教育会館において第1回総務部会を開催し、役員選出及び事業内容等の協議を行った。

1 平成13年度役員

部長 柿崎龍夫(宇・陽北中)
副部長 大柿克治(栃・栃木西中)
" 神長利光(河・上河内中)

2 事業内容

- (1) 県中学校長会要望書案の策定
(義教振・教副教要望書への意見集約)
- (2) 行政当局をはじめとする県内各関係機関への要望部活の推進
- (3) 県中学校長会の次年度の運営方針、活動の重点の検討と立案

3 事業計画

- (1) 県職員福利厚生事業推進協議会作成の「教職員福利厚生事業充実に関する要望書」への意見集約(6月・7月)
- (2) 義務教育振興協議会要望書起草委員会への意見集約(6月・7月・9月)
- (3) 第2回総務部会(7/12)
県中学校長会要望書案の策定
- (4) 県教委義務教育課等への要望活動(8/22)
- (5) 知事部局、県議会関係者等への要望活動(9月)
- (6) 各地区の関係機関への要望活動(9月、10月)
- (7) 第3回総務部会(9月)

平成13年度の運営方針・活動の重点等の案策定

- (8) 第4回総務部会(12月)

平成13年度の運営方針・活動の重点等の案決定
(9) 理事・協議員会にて運営方針・活動の重点の決定(2月)

◆ 事業部

部長 後藤明(宇・雀宮中)

平成13年4月24日(火)教育会館において、事業部会を開き、前年度までの事業の継承の必要性を確認し、本年度の組織及び事業計画を次のように決定した。

1 役員

部長 後藤明(宇・雀宮中)
副部長 齋藤雄介(河・河内中)
" 齋藤宏壽(那・東陽中)

2 事業計画

「退職後の生活設計について」の研修会の開催

- (1) 日時 平成13年12月13日(木)
13:00~16:00
- (2) 場所 栃木県教育会館 3階大会議室
- (3) 参加者 栃木県中学校長会会員(希望者)
- (4) 内容

ア あいさつ
・栃木県中学校長会長 ・栃木県教育委員会
福利課長

イ 講話
(ア) 医療保険について
・退職後の医療について ・任意継続組合
員制度について ・継続医療制度について

(イ) 退職手当について
・退職手当について ・退職手当の算
出について ・各種の税について

(ウ) 年金制度について
・退職共済年金の内容と仕組みについて
・退職共済年金の支給について

(エ) 教育福祉振興退職者部会について
・退職者部会について ・退職者の加入の
しかたについて

(オ) その他
(講話については栃木県教育委員会福利課
の担当の方々にお問い合わせ)

ウ 質疑応答

◆ 調査部

部長 定岡明義(宇・陽西中)

1 役員選出と事業計画の作成
平成13年4月24日、栃木県教育会館において調査部会を開催し、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定した。

- (1) 役員
部長 定岡明義(宇・陽西中)
副部長 久保田宏(河・本郷中)
" 長嶋憲介(下・南犬飼中)

(2) 事業計画
ア 全日中教育情報部が全国で実施する「中学校教育に関する調査」に応じ、本県の状況を調査し報告する。

イ 県中学校長会及び各専門部に必要な調査と資料を提供する。

ウ 他の都道府県中学校長会及び各教育関係団

体との連携・協力並びに資料・情報の交換等を実施する。

エ 各種調査結果及び資料収集、情報の提供や配布等を実施する。

2 「中学校教育に関する調査」について

本調査は、全日本中学校長会教育情報部が全国で実施するもので、本年度は下記の項目について調査し回答した。

なお、回答にあたっては県教育委員会に多大な協力を得たものである。

- (1) 平成13年度の栃木県の教育費。
- (2) 平成13年度の公立中学校学級数別教展定数。
- (3) 特別配当教諭の制度。
- (4) 教員に対する県教委の異動方針。
- (5) 教員一人あたりの旅費。
- (6) 教員の待遇。
- (7) 教員の退職。
- (8) 公立中学校長の待遇。
- (9) 公立中学校長の退職。

◆ 研修部

部長 谷島利康(宇・一条中)

平成13年4月24日(火)県教育会館において専門部会を開き、本年度の組織及び年間事業計画について協議し、次のように決定した。

1 平成13年度役員

- 部長 谷島利康(宇・一条中)
- 副部長 高橋仁市(南・烏山中)
- 〃 酒井一行(小・小山第二中)

2 平成13年度研究活動計画

(1) 研究テーマ

[生きる力]をはぐくみ、新しい時代を拓く心を育てる中学校教育

研究の視点

生徒に豊かな人間性の基礎・基本を身に付け主体性や個性を生かす特色ある教育活動を展開し、自ら学び考え[生きる力]を育む中学校教育の創造

(2) 主な研究活動

ア 第23回栃木県中学校長会研究大会の実施
今年度の栃木県中学校長会研究大会は平成13年9月7日(金)に栃木県子ども総合科学館で開催されます。今年は、関東地区栃木大会がありましたので、分科会発表はなしで半日で実施します。

- ・県中学校長会重点研究課題からの研究主題については、平成14年度に引継ぎます。
- ・午後の実施で、開会行事、全体会発表、講演が中心となります。
- ・全体会発表は、全日中校長会青森大会、栃

木県提案のリハーサルとして、鹿沼・東中の角田昭夫先生を、講演は精神科医師の見川泰岳先生を予定しています。

イ 研究収録の作成

- ① 第23回研究大会内容の編集
- ② 各地区研究内容の編集

◆ 広報部

部長 橋本忠良(河・河内中)

平成13年4月25日(水)に、下記のように新役員を決定し、次いで平成13年7月10日(火)南河内中学校にて、第一回広報部会を開催した。協議の結果、本年度の事業計画を次のように構想した。

1. 平成13年度の役員

- 部長 橋本忠良(河・南河内中)
- 副部長 堀江昌子(宇・宮の原中)
- 〃 池澤勤(小・美田中)

2. 今年度の会報発行の構想

- (1) 発行回数は2回とする。
 - ・第95号、第96号とする。
 - ・内容はこれまでとほぼ同じとする。
 - ・「地区だより」については、県校長会の諸般の事情により割愛する。(主に予算的な事情で)
- (2) 発行予定日
 - ・第95号 平成13年9月7日ごろ
 - ・第96号 平成14年2月15日ごろ
- (3) 各号の主な内容について

① 第95号

- ・役員所感
- ・各専門部の活動計画
- ・退任に当たって
- ・新任校長のひとこと
- ・私の朝会訓話

② 第96号

- ・役員所感
- ・各専門部の活動報告
- ・全日中研究協議会(青森大会)の参加報告
- ・研究学校の発表概要
- ・海外研修視察記

◆ 進路対策部

部長 大出尚美(小・大谷中)

平成13年4月24日(火)県教育会館において専門部会を開き、本年度の組織及び年間事業計画について協議し次のように決定した。

1 組織

部長 大出尚美(小・大谷中)

副部長 古田 治(宇・豊郷中)
〃 小口 勝(佐・南中)

2 本年度の事業計画

中心テーマ「中学校進路指導の適正な推進と高校教育改革への提言」

① 第1回研修会

- ア 期日 平成13年7月10日(火)
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容
 - ・本年度の事業計画の確認
 - ・昨年度までの本部会の報告
 - ・高校入学者選抜に関すること
 - ・私立高校の教育・入学者選抜に関すること
 - ・情報交換

② 第2回研修会

- ア 期日 平成13年10月23日(火)
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容
 - ・私立高校の教育・入学者選抜について私立中連合会代表、中学校会役員等出席予定
 - ※各地区より県内各学校にアンケート調査を依頼し、部会でまとめ、緊急要望事項を検討し、私学連の役員に要望する。

③ 第3回研修会

- ア 期日 平成13年12月6日(水)
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容
 - ・県立高校の入学選抜についてのまとめ
 - ・平成13年度入学者選抜について
 - ・平成12年度卒業生の進路状況について
 - ・その他

④ 第4回研修会

- ア 期日 平成14年1月中旬(未定)
- イ 場所 栃木県教育会館(予定)
- ウ 内容
 - ・県立高校の入学選抜についての要望書提出
 - ・平成14年度入学者選抜等について
 - ・その他

◆ 生徒指導部

部長 関口周治(那・黒田原中)

平成13年4月24日(火)栃木県教育会館において第一回の部会を開催し、本年度の組織及び事業計画について協議した。

その結果、ほぼ前年度の事業内容を継承することになり、概ね次のように決定した。

1 役員

- 部長 関口周治(那・黒田原中)
- 副部長 赤城秀明(宇・鬼怒中)
- 〃 大橋哲夫(栃・東陽中)

2 研修計画

- (1) 平成13年度研修課題
 - いじめ問題及び不登校等学校不適応生徒への適切な指導と対応
- (2) 第二回部会研修会
 - 平成13年10月23日(火)
 - 栃木県教育会館
- (3) 研究の方向
 - 研修課題について、各校で取り組んでいる研究実践例を発表しあい、課題解決に役立てる。
 - 主な話し合い事例として次のようなものが挙げられる。
 - ・課題解決のための校内指導体制及び地域との連携の具体例
 - ・各種専門機関との連携
 - ・「スクールカウンセラー」及び「心の教室相談員」との連携
 - ・生徒指導に関する特色ある教育活動の実践事例
- (4) その他
 - ・平成14年度版「生徒手帳」の編集会議
 - ・その他情報交換

◆ 修学旅行部

1 事業計画

月	日	活動内容	会場等
5	7	県修学旅行部会 役員選出、事業計画、その他	教育会館
6	1	関東修学旅行委員会総会並びに第1回研究協議会 前年度の事業報告・新年度の事業計画	群馬県伊香保町
6	15	県修学旅行専門委員会 修学旅行列車申し込み説明	教育会館
7	13 30	三地区(関東・東海・近畿)中学校修学旅行委員会総会 平成15年度修学旅行列車申し込み集計表提出	大阪市
9	21	第2回研究協議会 輸送計画の調整	東京都
10	10 19	輸送計画の茨城県の調整絡会議 第3回研究協議会 輸送計画決定	水戸市 東京
11	22 30	第18回全国修学旅行研究大会 「平成14年度修学旅行新幹線輸送計画書」を配布	千葉県市 柏
1	17	「関西の旅申し込み集計票」を教材 研究社へ送付	京都
2	1 15	各県修学旅行委員長・部会長会議 関修委第5回研究協議会	東京 東京

2 課題

- ① 県内の関修委加盟校の加入促進
- ② 「関西の旅」等の利用拡大
- ③ 修学旅行行く先の検討など

〔私の朝会訓話〕

校長の訓話（講話）は校長の授業

私の学校では「朝会の訓話」は無く、月1回、水曜日の午後に「校長講話」として実施しています。

年間12回で、1回の時間は15～20分です。

校長講話は大きく分けて2つの考え方があると思っています。一つは「生徒は話を誰も覚えてはいない。短時間で済ましてしまう方がよい」という考えと、もう一つは「校長の授業であり、唯一校長が全生徒に向かって考えを言える大切な場」であり、「話を覚えていなくとも、生徒が成長する上で、その時々が良い刺激（肥料）になればよい」という考え方です。私は「校長の授業である」と思って実践しています。従って、指導計画をつくり、教材や授業方法も考え、全校生からの評価も受けています。

指導計画は「校長講話シリーズ」として1冊の綴

上三川町立上三川中学校長 永井 征 男
りにまとめ、内容やねらいの一覧を表示し、これに基づき実践をしています。都合で講話が出来ないときにはコピーし、「紙上校長講話」としてプリント（B4版1枚）して全生徒に配布しています。

講話の例を挙げますと、「村八分」（差別と二分残しの村人の優しさ）、「ベートーベンの遺書」（生命尊重、ハイリゲンシュタットの遺書の朗読と第九のCDを聞く）、「日光仏五佐衛門と那須野が原の草刈る男」（郷土愛、栃木県人の良さ、「奥の細道」の一節を朗読）、「ならぬことはならぬものです」（心の教育、会津日新刊と「竹の掟」）、「上三川町は地球の一部」（環境）などの20編。

暑中見舞いや年賀状には一言コメントが付け加えられている時があります。蓋、反応に自惚れ有り。

い言葉とし、毎日の教育活動を充実させることが不可欠であると確認し、出張等で校外に出掛ける場合を除き、毎日授業中の生徒の様子を見に行くこと。

- ③ 教育目標の具現化を目指した今年度の努力点の具体化に向けて、校務分掌主任に対して方策を尋ねるとともに、適宜指導を行うこと。
- ④ 新しい教育の実現を図るため、指導者の意識改革の必要性について訴え続け、校内研修を充実させるとともに、自主研修の具体的内容について例示すること。
- ⑤ 「開かれた学校」の系としての学校評議員制度の導入に伴い、趣旨及び運用の在り方を研究するとともに、「広報・広聴活動」の充実を目指し、校長による『学校通信』を適宜発行すること。

◆ ◆ ◆
今市私立大沢中学校長 長 田 善 史
校長職6年目にし、再び中学校へ戻ってきた。教務、教頭とあたりまえに年を重ねて31年、5年の小学校を経験しての久しぶりの中学校。今、たくましく、はつらつとした懐かしい中学生の姿を目の前にして、感入の思いが募る。

着任早々、生徒にこんな話をした。「私はつい先月まで小学校で、『よい子のみなさん、オッハー』

〔新任校長の一言〕

上三川町立明治中学校長 大塚 正 則
『やっと終わった。』というのが正直な気持ちであった。第1学期の終業式後の打合せの時である。

この学期ほど、「経営」という二文字の重さを感じたことはなかった。このような学校づくりをしたい、先生方にはこう動いて欲しいと、私なりの学校経営理念をもっていただけにはあるが、いざ学校経営に直面してみると、そうは上手くはいかない。

がしかし、自分なりの経営理念は、可能な限り明確にし、協働体制づくりに努めたつもりではある。今後の課題を探るため、また、諸先輩の指導を仰ぐため、努力の一端を箇条書きにまとめてみた。

◎初日と2日目を使い、21世紀の学校の在るべき姿及び学校経営についての理念を総論として訴え、次に各論として、理念を踏まえた教育実践の具体論について資料を基に講話をする。

経営理念を現実のものにするために私なりに努力したことは、おおよそ次の5点である。

- ① 朝の職員打合せ時の「校長の一言」については、事前に準備を行い、教育実践の基本的な考え方とその具体論について必ず触れること。
- ② 「生きる力」をはぐくむには、「事上磨練」を合

などとやっていた。こらからはそれでは失礼なので呼びかけは『みなさん！』だけにす。しかし、私が『みなさん！』と呼ぶ前には必ず『よい子の』という言葉がかくされている。すなわち、私には小学生も中学生も、子どもは皆“よい子”なのである。5年前、中学校から初めて小学校へ移って、可愛らしい小学生の純真さに触れ、又けがれない子ども心に胸をうたれるなどして、持ち前の性善説に大きな自信をつけることができた。とりもなおさずそれは、忘れかけた教育の原点を改めて教えられることとなった。だからこそ、中学生とは言え“よい子”から“普通の子”への切り替えは何とも抵抗を感じてならない。

今、子どもたちは氾濫するマスメディアの中で、強くたくましく生きる力を強いられている。ことに、多感な年代の中学生を取り巻く社会環境の劣悪ぶりは目に余るばかりであるが、そんな現代を嘆きつつも何とかしてあげなければならない私たち教師、大人たちの使命は大きい。“育てたように子は育つ”。書家、相田みつをの名言を校長室の壁に掲げ、あるべき大人社会の肅正の姿を心に描き、日々奮闘している。生徒475名。幸い子どもたちは健全に動き研んでいる。特に運動部活面での活躍は著しく、あらゆる種目で地区大会の上位を占め、県にも名を馳せてくれて校長冥利に尽きるところである。

生徒が主役の学校づくりの私の呼びかけに、見事こたえてくれている子どもたち。“慈にして厳”のモットーも忘れず、教育理念を踏まえて職員一丸となってさらに邁進する覚悟である。

◆ ◆ ◆ 一学期を終えて

二宮町立久下田中学校長 菱 沼 知 仁
新任校長として、以前勤務したことがある久下田中学校に赴任して、4か月が過ぎました。始めは、校長として生徒のための学校経営ができるかどうか不安でしたが、生徒や教職員、地域や保護者等多くの人達に支えられ、1学期を無事終了することができました。それと同時に、2学期以降しなければならぬ学校経営の課題もたくさん見つかりました。今後これらの課題についても取り組んでいかなければと気を引き締めています。

本校は、二宮町の中心部にあり、10学級284名の生徒が通う、緑に囲まれた自然豊かな学校です。元気のよいあいさつができることと、清掃や奉仕作業などに一生懸命取り組むことは、4年前と変わらずよくできており、久下田中学校のよき伝統であると感じました。そして新たに生徒の自主的活動も以前

に比べ素晴らしくなっています。対面式や部活動紹介、修学旅行や洋上・宿泊学習、部活動激励会や生徒集会等、生徒が中心になって企画・運営する活動が数多く展開されており、よき伝統に加えられればと思っています。

さらに、これから伸ばしたいこととしては、生徒一人一人が自分をよく知り、自分に自信をもつことができるようになればと願っています。人間は「何か一つでも、他の人よりも優れたことがあると本人が自覚できた時、それが自信につながる。」と感じているからです。それには、生徒自身が本気になって勉強や部活動などあらゆることに取り組み、何が自分のよさなのかを見つけることだと思います。一方、その支援役としての職員や保護者は、生徒たちの活動をよく見守り、適切な言葉かけができるようにすることが重要です。当たり前のことなのですが、どうすれば具現化できるのかを職員と共に真剣に考えていきたいと思っています。

その他にもいろいろとやらなければならないことが山積していますが、ゆとりを持って、じっくり焦らず、取り組みたいと考えている夏休みです。

◆ ◆ ◆ スタートを振り返る

壬生町立南犬飼中学校長 長 嶋 憲 介
強がりに聞こえるかもしれませんが、新任校長としてのスタートに当たり、不安よりは意欲・充実感といったものの方が大きかったと思います。もちろん、生徒指導に関する諸問題やそれらについての責任を一身に引き受けなくてはならないこと、また、30数年勤務した地を離れ、他管に出ることなどへの不安が全くなかったと言えば、うそになります。

着任の時、これだけはと強く意識したことがあります。それは必要以上に力まないということです。リーダーシップを発揮することと、自分の理想や考えを一方向的に押しつけることとは違っていると、自分に言い聞かせたのでした。

そんなわけで、今年度は21世紀の幕開け、教育改革を踏まえた移行装置の年、県校長会においては関東地区大会の開催と、たいへんな年度だったのですが、これも何かのめぐり合わせと割り切って、気負わずにスタートを切ることができました。

自覚が足りないと言われれば、確かにそうかもしれませんが、危機管理、説明責任などの言葉に対し過度に憶病になり、消極的になったり、萎縮したりすることだけは避けたいと、強く思っています。

下都賀郡中学校長会においては、すばらしい先輩

の校長先生方と出会うことができ、月1回の会合を楽しみにしています。ここでは、学校現場の諸問題に関して、行政主催の研修会だけでは得られない、生きた研修をさせていただいています。

この数か月の経験から思ったのですが、校長という立場は、つまりは多くの人とのつながりを大切に、それを学校教育に生かしていくことに尽きるのではないかということです。これには教諭として学習指導に当たっている時とは別の資質が必要です。自分には、やや苦手な部分です。そういうわけで、毎日のように校長室を訪れる方々への応対も修養のためと思い、誠意をもって行っている今日このごろです。お陰で、体にはいいというお茶ではありますが、近ごろは、ややもてあまし気味に…。

◆ ◆ ◆ 偉大なる邂逅の連続

小山市立豊田中学校長 谷田貝 勝

教職についてこれまで、多くの先輩から教師としての生き方・在り方を学んだ。いくつかの学校・職場を転勤し、振り返れば上司や同僚に支えられてきた教職である。そして多くの生徒や保護者との出会いは、学ぶことの方が多かったとつくづく思う。

本年4月、新任校長として小山市立豊田中学校に着任し、276名の生徒と23名の教職員との出会いがあり、本校の歴史と伝統を築いてきたとも言える地域を代表する来賓の方々のご臨席の下、すべての新入生の保護者が出席して挙行された平成13年度の入学式は、校長としての責任の重さを痛感した。

機会ある毎に学校を訪れて下さる地域の方々は、「おらが学校」に誇りを持ち、私たち教職員に信頼と期待を寄せて下さっている。ありがたいこととつくづく思う。

このたびの校長会への入会は、私にとって「偉大なる邂逅の連続」である。校長会の皆様には、今まで以上にお世話になることと思いますが、ひとつひとつ学びながら、一步一步前進できるよう、努力していきたいと思ひます。

◆ ◆ ◆ 不登校生のいない学校

栃木市立皆川中学校長 深谷 一 男

4月9日入学式が終了し、校舎と校庭の間を流れる「藤川」の辺に佇んでいると、カワセミが飛来し木立に止まり水中のオイカワを獲ろうとしましたが私と視線があったためか川下へ飛んでいってしまいました。都市化が急激に進む県南の地に、まだ自然

豊かなこんな場所があるのかと、自分が育った頃を懐かしく思い出し感動しました。反面、この皆川地区は過疎化が進み、毎年10数名の生徒が減少し、本年度は159名の生徒数となってしまいました。幸い、学級減にはならなかったので、教職員数の変動もありませんでしたが、来年度は厳しい状況にあります。

本校は、平成11・12年度文部省・県教委・市教委の指定を受け「人権・同和教育の研究」を実施しました。人権・同和教育の今日的課題、地域・生徒の実態、学校教育目標から研究主題を「互いの人権を認め合い、自ら考え行動できる生徒の育成」とし、特に、自尊感情・他尊感情・互尊感情の育成を中心に、偏見の排除や差別の解消のため研究を深め現在も学校課題として継承し、教育活動を展開しております。先代の校長先生はじめ教職員・PTA・地域が一体となって取り組んだ努力の甲斐があり、不登校生は勿論、保険室登校生や相談室登校生の全くいない学校運営がなされています。従って、この状態を改める経営方針など、4ヵ月過ぎた今でも必要ないと感じています。

今、各学校で様々な教育改革に向けて準備を推し進めているところかと思ひます。本校では、地域に根ざした学校づくりの一貫として、「皆川ふれあいふるさとまつり」の成功と地域活性化のために、よさこい音頭・ソーラン踊り・地区のお囃子をもって生徒・教職員が参加協力しようとしています。

〔編集後記〕

夏休みに入る前の猛暑、晴天続きの夏休み、そのための都市部を中心とした水不足の夏となりましたが、各学校の校長先生方におかれましては、どんな一学期だったことでしょうか。

振り返ってみますと、関東甲信越地区中学校長会研究協議会・栃木大会が6月の6日～8日に行なわれ、関東各地から約1000名もの参加者が集い、成功裏に終了できました。全ての本県・各中学校の中学校長先生方の御労苦に、お互いに感謝と労いの言葉を述べ合いたいと思ひます。御苦労様でした。

また、今年からこの「県中学校長会・会報」の予算が大幅に削減されることになり、今号のようにページを減らさざるをえなくなりました。広報部会での話し合いの結果、年に2回はぜひ出したいということでもとまりました。基本的な構成は、できるだけ従来のものを守っていくとともに、少しでも読みやすい会報を目指していきたいと思ひます。

(橋本 記)